

はじめに

本書は、実際に保育者養成に関わっている教員が、幼稚園教諭・保育教諭をめざす人の教育学入門書として必要と考えるエッセンス抽出し、全17章にまとめたものである。

保育者養成の世界は、さまざまな背景となる専門領域を修めた教員が、保育者養成という一つの目的に向かって指導していく、いわばオーケストラのような性格をもっている。そのためには、個々の教員自身が、保育者養成の全体像を理解し、背景となる専門領域を深め、子どもの指導ができるように導いていくことが必要不可欠である。

そのため本書は、まず第1章から第6章までを「教育の基礎的理解」に関するものとし、次いで、第7章から第9章までを「道徳、総合的な学習等の指導法及び生徒指導、教育相談等」に関するものとしている（第Ⅰ部）。それを受けて、「領域に関する専門的事項」「保育内容の指導法」として第10章から第17章までを展開し、同時に具体的な場面で「教育実践」を紹介するという構成にしている（第Ⅱ部）。

このような意図で書かれた本書を、幼稚園教諭・保育教諭をめざす学生を指導する先生方には、教育学全体を俯瞰する基礎ゼミナールとして、あるいは個々の教育学の専門分野の領域の導入教育として、さらには卒業前の振り返りに使用していただけたらと思っている。また、幼稚園教諭・保育教諭をめざす学生自身も、このような意図を理解して熟読していただけたらと思っている。

最後になりましたが、お忙しいなかでご執筆いただいた各位に感謝申し上げます。また、無理なお願いを快諾してくださった、大学教育出版の佐藤守氏に心から御礼申し上げます。

令和2年4月

編著者代表 川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科 学科長・教授 橋本 勇人

幼稚園教諭・保育教諭をめざす人のための教育学入門

目 次

はじめに	i
------------	---

第 I 部 教育の基礎的理解

第 1 章 教育の基礎理論	3
---------------------	---

1. 教育の意義 3
 - (1) 教育による文化の継承 3
 - (2) 環境の調整による成長の促進 4
 - (3) 未来を志向する教育 4
2. 教育の歴史 5
 - (1) 古代ギリシャの教育 5
 - (2) 中世ヨーロッパの教育 5
 - (3) 公教育としての学校の構想 6
 - (4) 集団を対象とした教育の広がり 6
 - (5) 現在の日本の教育 7
 - (6) これからの時代の教育 8
3. 幼児教育・保育の歴史 11
 - (1) オーベルリン 11
 - (2) オーエン 11
 - (3) フレーベル 12
 - (4) モンテッソーリ 12
 - (5) 日本における幼稚園の始まり 12
 - (6) 倉橋惣三 13
 - (7) 日本における託児事業の始まり 13
 - (8) 現在の日本における幼児教育・保育 14
 - (9) ECEC (Early Childhood Education and Care) 14
 - (10) アタッチメントへの注目 15
4. 子どもの教育及び保育を支える保育者 15
 - (1) 日本における就学前教育 15

- (2) 幼稚園・幼保連携型認定こども園で必要となる免許・資格 16
- (3) これからの保育者に求められる資質・能力 17

第2章 幼稚園教諭・保育教諭に必要な教育知識 19

- 1. わが国の教育に関する法体系と教育制度 19
 - (1) わが国の教育に関する法体系 19
 - (2) 中央と地方の教育行政のしくみ 20
- 2. 学習指導要領等の拘束力と変遷 21
 - (1) 教育権の所在論争と学習指導要領の法的拘束力 21
 - (2) 学習指導要領の変遷 21
- 3. キャリア教育と生きる力 23
 - (1) キャリア教育 23
 - (2) キャリア教育の背景となる生きる力 24
- 4. 教育と個人情報保護 24
 - (1) 教育現場で個人情報と関係する法律 24
 - (2) 個人情報保護法の概要 25
 - (3) 2015（平成27）年の個人情報保護法改正 25

第3章 発達と心理学 27

- 1. 発達を捉える視点 27
 - (1) エリクソン説 27
 - (2) ピアジェ説 28
- 2. ピアジェ説からみる子どもの発達過程 29
 - (1) 感覚運動期（0～2歳） 29
 - (2) 前操作期（2～7歳） 30
 - (3) 具体的操作期（7～11歳） 31
 - (4) 形式的操作期（11歳～） 31

第4章 学習と教育場面の心理学	32
1. 2種類の条件づけ	32
2. 古典的条件づけ	33
(1) 枠組み	33
(2) 教育場面への応用 — 児童虐待による PTSD を読み解く —	35
3. 道具的条件づけ	36
(1) 枠組み	36
(2) 教育場面への応用 — 不登校を読み解く —	38
4. 学習と社会的環境	39
(1) 学習観の発展	39
(2) 教育・学習の社会的・伝統的な意味と範囲	40
第5章 特別な配慮を要する子どもの理解と教育的支援	42
1. 特別な配慮とは	42
2. 障害のある子どもの理解と支援	44
3. 貧困家庭の子どもの理解と支援	46
4. 日本語に困難を抱える子どもの理解と支援	49
第6章 カリキュラムの編成とマネジメント	52
1. 幼児教育における保育活動等の計画	52
(1) 全体的な計画	52
(2) 指導計画の作成と利用	53
2. カリキュラムの編成	53
(1) カリキュラム	53
(2) 教育課程の基盤となる資質・能力と5領域	54
(3) カリキュラムの配列	55
(4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	55
3. 評価とマネジメント	56
(1) 計画・実践・評価・改善	56

- (2) カリキュラム・マネジメントの重要性 56
- (3) 保育の質の向上と評価 58
- 4. さまざまな評価とその利用 58
 - (1) さまざまな評価 58
 - (2) 評価の利用とカリキュラム・マネジメント 60

第7章 教育方法の理論と実践 62

- 1. 教育方法の歴史 62
 - (1) 古代ギリシャの教育方法 62
 - (2) 印刷術の発明と知識の普及 63
 - (3) 一斉授業の始まり 63
 - (4) 家庭での教育と公教育 63
 - (5) 遊びを用いた幼児教育 63
 - (6) 四段階教授法（ヘルバルト） 64
 - (7) 五段階教授法の発展（チラーとライン） 64
 - (8) モンテッソーリの教育方法 65
 - (9) 直接経験を重視した教育 65
 - (10) 発達の最近接領域への働きかけ 65
- 2. 系統学習と問題解決学習 66
 - (1) 系統学習 66
 - (2) 問題解決学習 67
- 3. 幼児期における学びのデザイン 67
 - (1) 遊びを中心とした環境を通して行う教育 67
 - (2) 子どもの発達と5領域 68
 - (3) 保育者に求められるもの 68
- 4. 教材の研究（視聴覚機器や情報機器の利用を含む） 71
 - (1) 教科教育における教材の研究 71
 - (2) 幼児教育における教材の研究 72
 - (3) 幼児教育における教材の使用の実際 72

- (4) 教材研究に求められるもの 74
- (5) 視聴覚機器や情報機器の利用 74

第8章 子ども理解の理論と方法 76

1. 子ども理解の視点 76
 - (1) 子ども理解の重要性 76
 - (2) 「上から見た」子ども理解と「横から見た」子ども理解 76
 - (3) 保護者との協働が子ども理解を促進させる 77
2. 子どもを理解するための理論と方法 78
 - (1) 子どもを観察する方法 78
 - (2) 保育カンファレンス 79
 - (3) エピソード記録 81
3. 子ども理解に基づく発達支援 81
 - (1) 個と集団の理解 81
 - (2) 特別な配慮を要する子どもの発達支援 82

第9章 教育相談 84

1. カウンセリングの基礎 84
 - (1) 来談者中心療法 84
 - (2) マイクロカウンセリング 86
2. スクールソーシャルワーカーによる教育相談 86
 - (1) スクールソーシャルワーカー (SSWr) 活用事業の歴史と意義・特質 86
 - (2) スクールカウンセラーとSSWrの違いと協働 88
3. 精神障害をもつ保護者に対する支援 89
 - (1) メンタルヘルス問題を抱える保護者の増加 89
 - (2) 精神障害をもつ保護者への対応 90

第Ⅱ部 領域に関する専門的事項・保育内容の指導法

第10章 幼児期における保育の内容（5領域）	97
1. 保育内容5領域	97
2. 領域による子どもの捉え方と子どもへの援助	98
3. 幼稚園教育要領等の変遷	99
4. 幼児期の教育内容と指導法	102
第11章 子どもと健康	104
1. 領域「健康」において育みたい資質・能力	104
2. 子どもにとっての健康と生活習慣	105
(1) 子どもの心と身体の健康課題	105
(2) 健康の定義と健康を決めるもの	105
(3) 子どもにとっての健康の意義	106
(4) 基本的な生活習慣を形成する意義	106
3. 子どもの身体の諸機能と運動機能の発達	107
(1) 発育と発達	107
(2) 子どもの全体的特徴	107
(3) 運動機能の発達	108
4. 子どもにとって大切な運動遊び	110
(1) 運動遊びの意義	110
(2) 運動遊びにおける幼稚園教諭・保育教諭の関わり	110
(3) 子どもの運動能力を育む体操活動	111
(4) 体操活動の内容例（マットを使った運動遊び）	111
5. 子どもの健康と安全	112
(1) 子どもの病気と適切な対応	112
(2) 子どものけが・事故とその予防	113
(3) 安全教育	113

第12章 子どもと人間関係 115

1. 領域「人間関係」において育みたい資質・能力 115
2. 子どもと人間関係における現代的課題 116
 - (1) 子どもを取り巻く環境や生活の変化 116
 - (2) 子どもが育つ環境の変化と園における教育の役割 117
3. 子どもと人間関係の発達 118
 - (1) 乳児期に育つ人と関わる力 118
 - (2) 幼児期に育つ人と関わる力 119
 - (3) 自立心の育ち（発達の姿） 119
 - (4) 協同性の育ち（発達の姿） 121
 - (5) 道徳性・規範意識の芽生え（発達の姿） 122
4. 子どもと家庭・地域との関わりと育ち 123
 - (1) 多様化する家族形態・社会構造の変化が子どもに与える影響 123
 - (2) 家庭・地域で身につける力 123
 - (3) 保育者としての支援の視点 124

第13章 子どもと環境 126

1. 領域「環境」において育みたい資質・能力 126
2. 子どもを取り巻く環境 127
3. 子どもと環境との関わりと認知的発達 128
 - (1) 子どもと環境との関わり 128
 - (2) 子どもと環境との関わり 129
4. 子どもと文字や標識、数量や図形との関わり 129
 - (1) 園生活における文字や標識、数量や図形との関わり 129
 - (2) 文字 130
 - (3) 標識 131
 - (4) 数量 131
 - (5) 図形 132
 - (6) 指導上の留意点 132

5. 子どもの生活と情報・施設	133
(1) 子どもの生活と情報環境	133
(2) 子どもの生活と地域の施設	135
第14章 子どもと言葉	137
1. 領域「言葉」において育みたい資質・能力	137
2. 言葉のはたらきと意義	138
3. 子どもの言語機能の発達とコミュニケーション	141
(1) 乳児期	141
(2) 幼児期前期	141
(3) 幼児期後期	143
4. 具体的指導に関する内容	143
(1) 言葉に対する感覚を豊かにする実践	143
(2) 児童文化財を使った実践	149
(3) わらべ歌を使った実践	156
第15章 子どもと音楽表現	159
1. 領域「表現」において育みたい資質・能力（音楽表現・造形表現・身体表現）	159
2. 子どもの生活と音楽	160
3. 子どもの音楽活動を支える基礎的理論	162
4. 子どもの歌唱	166
5. 音を使った活動	168
第16章 子どもと造形表現	171
1. 子どもの造形表現	171
2. 材料や技法の基礎理解	172
(1) 描画材	172
(2) 主なモダンテクニック（造形あそび）	174

- 3. 造形表現の内容と実践 175
 - (1) 実践例1:「わたしのワンピース」 176
 - (2) 実践例2:「不思議なキノコ」 178

第17章 子どもと身体表現 180

- 1. 子どもの身体表現 180
 - (1) 「踊る」ということ 180
 - (2) 子どもの特性と身体表現 180
 - (3) 小学校での学習とのつながり 181
 - (4) 子どもの身体表現で大切にしたいこと 182
- 2. リズム遊びと表現遊び 184
 - (1) リズム遊び 184
 - (2) 表現遊び 185
- 3. モノを使った身体表現 188
 - (1) 新聞紙1枚で楽しめる遊び 189
 - (2) モノを使った身体表現活動のポイント 190
- 4. 水を使った遊びと身体表現 191
 - (1) 水遊びの特徴 192
 - (2) 水遊びの注意点 193

参考文献 194

執筆者一覧 198